

築するため（低リスクに寄与）

- b. さまざまな性に関する態度や意識を伝えるために（低リスクに寄与）

⑤多くのカフェ（テーマ＝教育内容）を掲げること

- a. 直接的に性に関わることから、間接的に性に関わることまでを網羅する。

⑥多様性へ配慮（子どもたちのニーズ、保護者のニーズ、教員のニーズに対応）すること

- a. 年に3回のセットが望ましい。

同校では、子どもたちのアンケートによりテーマを決め、教職員の希望をとり担当を決めた。そして、子どもたちのニーズ、保護者のニーズによるテーマの選択という年2回のセットで企画し、実践した。

### Ⅲ. 研究内容と考察

#### 1. 教職員の共通理解と研修

1年間の健康教育は年度始の職員会議で提案され、了承されて始めて実践可能になる。同校でも毎年、性教育については6月の職員会議で提案され了承を得ている。提案者は保健主事か養護教諭が行うことが多い。同校では養護教諭が保健主事も兼務しているため計画、実践、評価はすべて養護教諭が行った。新しいことを提案する場合はその実践の根拠について教職員に十分説明する必要がある。

6月の職員会議までにアドバイザーから電話、Eメール、面談によるアドバイスを受け、資料を作成し、企画委員会と職員会議に提案し、了承を得た。

提案骨子は以下の通りである。

##### (1) 実施時期

後期（10月～3月）に実施し、特別活動とする。

##### (2) 内容

①4～6年（合計28人、女子14名、男子14名）は従来の学級指導ではなく学年の枠をはずした個別指導あるいはグループ指導を行う。

②担当者が指導案を作成する。（全グループ）

③4～6年の個別、グループの分け方はそれぞれ指導者とテーマを決め、児童や保護者が希望するテーマのところで指導を受ける。

④目的

- ・心身の発育による性に関する個人差（興味・関心も含める）を尊重する。
- ・教師も自分が得意とする「性教育に関連する分野」により、その根底にあるメッセージを伝える。それは生命の大切さ、二次性徴、心の変化といったような従来 of 主題のように端的に表されるメッセージでなく、教師も“性を切り離せない”人間として子どもたちに伝えたいもの、といったような本質的な奥深い何か伝わればよい。

- ・性に関するネットワークづくりとして、将来子どもたちが相談できるリソース（資源）やライン、雰囲気を増やし、高める。また、個別指導・継続指導への布石となるようにする。

⑤指導者—4～6年の学年担任及び中・高学年の学年担当、養護教諭計6人

⑥「カフェテリア方式」

カフェテリア→客が自分で料理を選び、食卓に運んで食べる形式の飲食店—対象（児童）が学びたいことを自分で選ぶという意味

⑦実施に際しては保護者に知らせ、了承を得る。また、実施結果などは保護者へ還元していく。

⑧指導記録をとり、実施の評価を行い、まとめを作成する。

さらに、8月の校内研修で養護教諭が講師になり校内研修を行った。カフェテリア方式についてはアドバイザーにアドバイスされたことを伝えるという、伝達研修の形をとった。

また、11月の職員会議で6月の職員会議にかけた内容の変更点に関する了解を得た。具体的には中学校教師に1テーマ担当してもらうことと、2回の実施日の決定である。実施日についてはアドバイザーの都合と学校行事を調整し決定した。

そして、実施日の直前の職員会議（12月、1月においても内容を確認するための提案を行った。カフェテリア方式による性教育について合計5回、教職員に提案、協議し、了承を得たことになる。

##### (3) 考察

次のことが明らかになったり、示唆された。

- ①新しい実践は年度始の職員会議で了承を得ることは必須である。
- ②多くの学校では、職員会議の前に企画委員会があり、そこでも提案しておくとうい。
- ③新しい実践のメリットをわかりやすく提示する必要がある。
- ④新しい実践の場合、科学的根拠をわかりやすく説明する必要がある。
- ⑤職員会議では多くのことが提案されるので詳しい内容の説明は後日、研修という形で行うことも可能である。

## 2. 保健学習との関連

異年齢集団による学習を行う場合、前提条件として性に関する基礎知識を共通に理解させておく必要がある。対象を4年生からとしたために、4年生の保健学習「育ちゆく体とわたし」の単元を終わらせておくことを必須とした。

## 3. 第1回児童希望調査及び児童へのオリエンテーション

初めての実践なので児童へのオリエンテーションが必要である。

### (1) 実施日時

11月15日(月) 1校時 1/2時間  
(20分～30分)

### (2) 内容

各学年で行った場合、説明に過不足が予想されたため、養護教諭が行った。

このオリエンテーションを行う前に児童に第1回アンケートをとり、7つのテーマを決めた。

アンケートは21のテーマを提示し、自分が学びたい、知りたいテーマについて複数回答を求めるものである。

21のテーマについては、参考文献1, 2を参考に決めた。そのテーマは下記の通りである。

- ①きれいなからだ
- ②知らない人から自分のからだを守る方法
- ③生命誕生 (わたしたちが生まれたとき、いのちのはじまり)
- ④大切ないのち
- ⑤男女の協力
- ⑥二次性徴
- ⑦月経のしくみ
- ⑧射精のしくみ
- ⑨男子のからだと男性のからだ
- ⑩女子のからだと女性のからだ
- ⑪父親ってこんな気分だよ
- ⑫母親ってこんな気分だよ

- ⑬大人になるということ
- ⑭子どもを育てるということ
- ⑮家庭ってなに?
- ⑯結婚ってなに?
- ⑰性情報があふれている
- ⑱だれかをすきになるってどんなこと?
- ⑲男の子への興味
- ⑳女の子への興味
- ㉑男女交際ってどんなこと?

アンケートの集計結果は表1の通りである。

それをもとに養護教諭が7つのテーマ(表2)を設定し、オリエンテーション時に希望をとった。

担当者については当初、調査用紙による担当者の希望調査を行う予定であったが、多忙を極める学校事情のため、養護教諭が一人一人の思いを聞きながら(雰囲気高めながら)決めた。

### (3) 考察

この過程で以下のことが示唆された。

- ①担当者を決める場合は、本人の希望や思いを尊重することが大切である。(含中学校教師)
- ②”性“に興味関心のない児童のために”性以外“のテーマを設定することが必要である。
- ③中学校教師のテーマを設けることで、小中連携がはかられる。

(表1) 第1回児童希望調査結果 複数回答 n=28

項目	人	%
きれいなからだ	2	7.1
知らない人から自分の体を守る方法	4	14.3
生命誕生	13	46.4
大切ないのち	15	53.6
二次性徴	3	10.7
月経のしくみ	3	10.7
射精のしくみ	6	21.4
男子のからだと男性のからだ	6	21.4
女子のからだと女性のからだ	4	14.3
父親ってこんな気分だよ	6	21.4
母親ってこんな気分だよ	6	21.4
大人になるということ	8	28.6
子どもを育てるということ	7	25.0
家庭ってなに?	4	14.3
結婚ってなに?	3	10.7
性情報があふれている	1	3.6
だれかをすきになるってどんなこと?	6	21.4
男女の協力	4	14.3
男の子への興味	2	7.1
女の子への興味	0	0
男女交際ってどんなこと?	9	32.1

(表2) テーマと担当者

テーマ	担当者
いのちのふしぎ?	女性教諭
男の子ってこんなふうになるよ	男性教諭
女の子ってこんなふうになるよ	養護教諭
親になるってどんなこと?	男性教諭
だれかを好きになったり、結婚するってどんなこと?	男性教諭
男女交際ってなに?	中学校女性教諭
スポーツと健康	男性教諭

#### 4. 第2回児童希望調査とオリエンテーション

##### (1) 第一希望の結果

児童へのオリエンテーション時に、7つのテーマと担当者を明示し希望をとった。人数調整の可能性を考慮し、第2希望まで記入させた。

第一希望の集計結果は(表3)(表4)の通りである。

(表3)

第2回児童希望調査結果(学年別人数) n=29

テーマ	4年	5年	6年	計
いのちのふしぎ?	1	3	0	4
男の子ってこんなふうになるよ(男子限定)	2	1	3	6
女の子ってこんなふうになるよ(女子限定)	1	1		2
親になるってどんなこと?	2	3		5
だれかを好きになったり、結婚するってどんなこと?		1		1
男女交際ってなに?		1	4	5
スポーツと健康	5		1	6
計	11	10	8	29

(表4)

第2回児童希望調査結果(男女別人数) n=29

テーマ	女	男	計
いのちのふしぎ?	3	1	4
男の子ってこんなふうになるよ(男子限定)	0	6	6
女の子ってこんなふう	2	0	2

に大人になるよ(女子限定)			
親になるってどんなこと?	2	3	5
だれかを好きになったり、結婚するってどんなこと?	0	1	1
男女交際ってなに?	4	1	5
スポーツと健康	4	2	6
計	15	14	29

##### (2) 児童への指導内容

- ①テーマは人を見ないで自分で決めることが大切である。
- ②1人になる場合もあるがその方がいい話を聞けるかもしれない。
- ③男子限定、女子限定のテーマを設ける。理由はそれぞれ異性がいたら聞きにくいかもしれないし、質問もしにくいかもしれないので。
- ④中学校の先生の話は6年生が聞くといいかもしれない。(中学校教師より4年生は話しにくいので、入れないでほしいと言われていたため。)

##### (3) オリエンテーションの感想

また、希望調査と共にオリエンテーションを受けたときの感想を書かせた。

(表5)

(表5)

第2回児童希望調査の結果(一言感想)

n=28

内容	人数(%)	具体的な記述
興味・関心	19 (67.6)	たのしそう、早くやりたいです、ふだん学べないことが学べるのでうれしいです、男女交際って聞いてみたいなど
姿勢・心構え	3(10.7)	1人になってもしんげんに聞く、ちゃんと話を聞くなど
感想・理解	3(10.7)	話がよくわかった、きんちょうした、性教育にはいろいろあるんだなどわかった
理由	1(3.6)	わからなかったから選んだ
不安	1(3.6)	1人やったらどうしようと思った
無記入	1(3.6)	

#### (4) 考察

第2回児童希望調査より下記のことが明らかになったり示唆された。

- ① 4年生児童の約半数(45.5%)は“性”以外のテーマを希望した。
- ② 4～6年男子の4割(42.9%)が「男の子ってこんなふうになるよー男子限定」のテーマを希望した。
- ③ テーマを希望したことによって約7割の児童が授業に興味関心を示し、1割の児童が前向きな姿勢や心構えを示した。
- ④ 中学校教師が担当するテーマは最初から高学年(5・6年生)限定が適当である。
- ⑤ テーマと担当者を同時に提示することにより児童はテーマよりも担当者によって希望することもあり得る。

#### 5. 第1回カフェテリア方式による授業実践

##### (1) 実施日時

平成16年12月7日(火) 5校時

##### (2) 実施方法

担当者には事前に担当が作成した指導案を配布しておく。

当日、4～6年は各クラスから筆記用具を持ち、実施場所に移動し、授業を受けた。授業後は自分の教室に戻った。

実施場所は(表6)の通りである。多くの部屋が必要になるが、同じ部屋にすることは児童が集中しないので避けた。

(表6) 実施場所一覧表

テーマ	実施場所
いのちのふしぎ?	6年教室
男の子ってこんなふうになるよ(男子限定)	5年教室
女の子ってこんなふうになるよ(女子限定)	保健室
親になるってどんなこと?	多目的室
だれかを好きになったり、結婚するってどんなこと?	4年教室
男女交際ってなに?	図書室
スポーツと健康	児童会室

##### (3) 児童アンケート

実施前後に児童アンケートを行った。

実施前アンケート項目

- ① このテーマを第一希望にした理由
- ② 自分が選んだテーマで知っていること
- ③ 自分のからだやところを大切にするためにどんなことをすればいいと思うか。
- ④ 人の(友達や家族)からだやところを大切にするためにどんなことをしたら

いいと思うか。

- ⑤ ころやからだのことでこまったりなやんだりした時、誰に相談しようかと思うか。

実施後アンケート項目

- ① 自分が選んだテーマでどんなことがわかったか。
- ② 自分のからだやところを大切にするためにどんなことをすればいいと思うか。
- ③ 人の(友達や家族)からだやところを大切にするためにどんなことをしたらいいと思うか。
- ④ ころやからだのことでこまったりなやんだりした時、誰に相談しようかと思うか。
- ⑤ 担当の先生は何を言いたかったと思うか。

##### (4) 担当者アンケート(表7)

アンケート項目

- ① このテーマで子どもたちに伝えたいメッセージ(指導前に記入)
  - ② 指導後の感想
  - ③ 2回目の指導に向けての意見
- ##### (5) アドバイザーとの連携
- アドバイザーに授業参観をしてもらったあとに授業の評価と2回目実施に向けてのアドバイスを受けた。
- ##### (6) 考察

第1回目の授業実践を通して以下のことが示唆された。

- ① 担当者も自分のテーマを希望することにより授業の進め方、教材など積極的に工夫した。
- ② 児童の知識理解面での予備調査を実施することが必要な場合もある。。
- ③ 個別、小集団指導をすることにより児童はそれぞれの思いをだせていたと考えられる。(記録のビデオ、音声テープより)
- ④ 小集団指導においては、リーダー的な児童の思いや発言に授業の雰囲気は流されてしまうことがある。今回もその傾向が見られた(記録のビデオ、音声テープより)が担当者が1人つくことでフォローできていた。
- ⑤ 目的をどう達成するかについての担当者の事前の十分な話し合いが必要である。
- ⑥ ⑤に伴っての担当者のスキルアップが必要である。

(表7)  
第1回担当者アンケート一覧表

テーマ	子どもたちに伝えたいメッセージは？	指導後の感想は？	2回目の指導に向けての意見。
いのちのふしぎ？	大変、貴重な命なので、自分の命も友達の命も大切にしてほしい。	他学年の子どもの指導で新鮮でよかった。一生懸命話を聞いてくれ楽しかった。しかし、子ども達のニーズに合った話ができているかどうか心配なのと同時に一人一人のニーズがちがうので、どうい話をしたらよいか難しいと感じた。	他学年の子どもの指導で新鮮でよかった。一生懸命話を聞いてくれ楽しかった。しかし、子ども達のニーズに合った話ができているかどうか心配なのと同時に一人一人のニーズがちがうので、どうい話をしたらよいか難しいと感じた。
男の子ってこんなふうになるよ	心が育たないまま体だけ大人にならないよう心もきたえる必要がある。	自分の中で伝えたいこととテーマをつなげられないまま、学習に入ったので、心の面と体の面がいつたりきたりして子どもたちが学習しづらい状況をつくってしまった。他校の先生が参観されたことで、リラックスした話がうまくできなかった。 子どもたちの知りたいこと、学習したいことのニーズにあっていなかった気もする。	準備をしっかりとる。 子どもの実態(どんなことが学習したいか)を把握できるようにできたらいいと思う。
女の子ってこんなふうになるよ	指導者の体験から、体の変化への戸惑いはだれにでもあることをわかってほしい。自分の性を肯定的にとらえてほしい。自分を大切にすること＝からだを大切にすることだとわかってほしい。	思っていた以上に子どもたちはリラックスして臨んでいたし、積極的に学びたいという姿勢が自主的にメモをとるなどで、現れていた。育成学級の児童も楽しそうに学習していた。児童に対して、自分のテーマを選んでくれたということで、今まで以上に近く感じるようになった。	女の子の二次性徴について知識を与えるということだけに終わらせたくないが、小学校の発達段階でどこまで抽象的な面を伝えられるか試行錯誤である。ただ、「先生は何か一生懸命話してくれた」ということは伝わるようにはしたいし、少しでも「卒業しても性のことで何か困ったことがあったら相談したい」と思ってくれようになればと思う。
親になるってどんなこと？	親の役割や子どもたちに対する思いを分かってもらいたい。大変なことが多いけど喜びもたくさんあることに気づかせたい。	テーマが広くて指導する内容をしぼりきれなかった。自分が3人の子どもの親という立場から自分の思いや考えを中心に話したが児童の興味と結びついたかわからなかった。大変なことばかりではなく喜びもあることを伝えようと思ったがほとんどの児童がわかっていた。5人それぞれが自分の親をイメージして考えていたが、思った以上に親のことを理解していることが分かった。	何かを話をするというよりも親の役割の一部を実際に体験する方が苦労や責任の重さを感じさせることができるのではないかと思います。
だれかを好きになったり、結婚するってどんなこと？	自分のことを大切に思えない人は、人を好きになれない。はずかしいことではない。「すき」は「結婚」に必ずつながるわけではない。	思った以上に本児の考えが深く、「話をする」というよりも「話をきく」ことができたのでよかった。 決して表面的に「好き」ということをとらえるのではなく、お互いの気持ちを理解した上で「好き」という気持ちをとらえていると感じた。	偏った意見をもつのではなく、広い視野で子どもが考えられるようにしたい。「結婚とは何か？」と投げかけてみようと思う。
男女交際ってなに？	中学校教師のため記録なし		
スポーツと健康	スポーツを通して健康になれるためには、まず基本的な生活習慣が大切だということ。	指導者が伝えなかったことについてはおおよそ伝わったかなと思います。特に、睡眠や食事などはすぐにでも改善できることなので、子どもたちが即、実践してくれればと思います。	今回はスポーツマンシップやルールなどについて話がしたいです。

## 6. 保護者希望調査

第2回目は保護者の希望により、児童がどのテーマの授業を受けるか決めた。

### (1) 実施日

12月20日、21日の個人懇談会

### (2) 実施方法

各学年の個人懇談会で保護者にアンケート用紙を渡し記入してもらった。

### (3) 内容

- ①1回目の学習テーマ確認、
- ②保護者の希望（第一希望、第二希望）
- ③他に学習してほしいテーマ
- ④カフェテリア方式による性教育に対する意見、感想

### (4) 結果

第一希望の集計結果は（表8）（表9）である。

（表8）

第2回保護者希望調査結果（学年別人数）

n = 29

テーマ	4年	5年	6年	計
いのちのふしぎ?	5	4	3	12
男の子ってこんなふうになるよ（男子限定）	0	1	0	1
女の子ってこんなふうになるよ（女子限定）	2	3	1	6
親になるってどんなこと?	1	0	4	5
だれかを好きになったり、結婚するってどんなこと?	2	0	0	2
男女交際ってなに?	0	1	0	1
スポーツと健康	1	1	0	2
計	11	10	8	29

（表9）

第2回保護者希望調査結果（男女別人数）

n = 29

テーマ	女	男	計
いのちのふしぎ?	5	7	12
男の子ってこんなふうになるよ（男子限定）	0	1	1

女の子ってこんなふうになるよ（女子限定）	6	0	6
親になるってどんなこと?	2	3	5
だれかを好きになったり、結婚するってどんなこと?	2	0	2
男女交際ってなに?	0	1	1
スポーツと健康	0	2	2
計	15	14	29

自由記述の部分は時間がなく無記入が多かったが、担任によれば「カフェテリア方式による性教育」については概ね好意的な意見が多く、反対意見はなかったとのことである。

保護者の感想、意見、希望が記述されていた6名については下記の通りである。

- ①これからも引き続き行ってください。
- ②個人のレベルに合った学習方法なので、無理がなくて良いとおもいます。今後よろしくお願いいたします。
- ③恋愛とか男女交際などは時期がくれば自然にわかると思うので体の変化について教えてほしい。
- ④からだをきれいにするのはなぜ?どうしてかを説明してあげて欲しいです。（お風呂で洗いたらないようですので）本人にわかりやすくお願いします。理解力に欠けるようですので。
- ⑤むやみな性行為で病気になったりする事とかその病気について学習してほしい。
- ⑥男の子の体の成長に関して親自身が（特に女親）いろいろ知りたいので、子どもに伝える前に保護者に性教育を教えてほしい。

### (5) 考察

保護者希望調査を通して下記のことが明らかになったり、示唆された。

- ①約4割（41.4%）の保護者が「いのちのふしぎ?」のテーマを希望した。
- ②女子の保護者で4割（40.0%）が「女の子ってこんなふうになるよ」のテーマを希望した。
- ③「カフェテリア方式による性教育」は概ね保護者の賛同を得られた。
- ④保護者の希望として「性感染症について」「保護者への性教育」などがあることがわかった。

## 7. 第2回カフェテリア方式による授業実践

### (1) 実施日時

平成17年1月19日(水) 5校時  
自由参観日(終日参観可)

### (2) 実施方法

担当者には事前に担当が作成した指導案を配布しておく。

中学校教師については日程が合わず、今回は自校教師が担当した。

当日、4～6年は各クラスから筆記用具を持ち、実施場所に移動し、授業を受けた。授業後は自分の教室に戻った。

実施場所は(表9)の通りである。多くの部屋が必要になるが、同じ部屋にすることは児童が集中しないので避けた。

(表10) 実施場所一覧表

テーマ	実施場所
いのちのふしぎ?	児童会室
男の子ってこんなふうになるよ(男子限定)	5年教室
女の子ってこんなふうになるよ(女子限定)	保健室
親になるってどんなこと?	6年教室
だれかを好きになったり、結婚するってどんなこと?	4年教室
男女交際ってなに?	図書室
スポーツのみりよく	体育館

### (3) 児童アンケート

実施前後に児童アンケートを行った。

実施前アンケート項目

- ① このテーマで知っていること
- ② 自分のからだやこころを大切にするためにどんなことをすればいいと思うか。
- ③ 人の(友達や家族)からだやこころを大切にするためにどんなことをしたらいいと思うか。
- ④ こころやからだのことでこまったりなやんだりした時、誰に相談しようかと思うか。

実施後アンケート項目

- ① どんなことがわかったか。
- ② 自分のからだやこころを大切にするためにどんなことをすればいいと思うか。
- ③ 人の(友達や家族)からだやこころを大切にするためにどんなことをしたらいいと思うか。
- ④ こころやからだのことでこまったりなやんだりした時、誰に相談しようかと思うか。

⑤ 担当の先生は何を言いたかったと思うか。

### (4) 担当者アンケート(表7)

アンケート項目

① このテーマで子どもたちに伝えたいメッセージ(指導前に記入)

② 指導後の感想

③ カフェテリア方式についての意見

### (5) アドバイザーとの連携

アドバイザーに授業参観をしてもらったあとに授業の評価と次年度に向けてのアドバイスを受けた。

### (6) 考察

第2回目の授業実践を通して以下のことが示唆された。

- ① 個別、小集団指導をすることにより児童はそれぞれの思いをだせていたと考えられる。(記録のビデオ、音声テープより)
- ② 小集団指導においては、リーダー的な児童の思いや発言に授業の雰囲気の流れが流れてしまうことがある。今回もその傾向が見られた(記録のビデオ、音声テープより)が担当者が1人つくことでフォローできていた。
- ③ 目的をどう達成するかについての担当者の事前の十分な話し合いと担当者のスキルアップが必要である。
- ④ 参観日に実施することで、保護者を巻き込んだ授業が展開できた。
- ⑤ 4～6年生の縦割りは理解力などの差があり難しい面があった。
- ⑥ 保護者が選んだテーマについて不満を持つ児童もいた。
- ⑦ カフェテリア方式は担当者からも概ね賛同を得られた。

## III. 参考文献

1. 「学校における性教育の考え方、進め方」

平成11年3月31日発行 文部省

2. 「学校・園における性教育・エイズ教育指導資料」平成14年4月発行 京都市教育委員会

3. 松浦賢長：新しい時代の性教育を考える～思春期の性問題に対する現行学校性教育の限界～、日本性教育協会(JASE)研究月報、2004年5月

4. 松浦賢長、他：性教育に関する集団指導と個別指導の中間的指導「カフェテリア方式」の開発 第51回日本学校保健学会講演集、2000年11月

## (資料1) カフェテリア方式について (松浦)

現在の学校におけるリソースは性教育に関する個別指導に十分なものではなく、かつ、外部との連携がとれていない場合も多い。また、最近の研究成果では、子どもたちに必ずしも「性・セックス」について明言・明示することが、子どもたちの性行動を低リスクなものにするわけではない(逆効果でさえある)ことが明らかになってきており、性に関する慎重な態度(特別視/敷居)は言葉以外で伝わる部分も大きいことがわかってきた。これらの状況から、クラス一斉授業と個別指導の中間体として、カフェテリア方式を考案した。

複数の教師・養護教諭がそれぞれ自分の言葉で自分の体験をもとに「なんとか話せる」テーマ(カフェと言う)を選び出す。クラスの枠をとりはらい、①子どもたちが聞きたいテーマを選択する、②保護者が子どもに聞かせたいテーマを選択する、③教師が子どもに聞かせたいテーマを選択する、などのバリエーションをもって、年間2~3回の性教育指導(特別活動等)をおこなう。子どものニーズの分布のみならず、保護者の意向の分布を得ることができ、かつ、多様性に配慮することが可能となる。なによりも多くの教職員がカフェを担当することにより、教師集団としてのメッセージ環境(性を特別視する環境)を子どもたちに与えることができるのが特徴である。もちろん、カフェの担当者に他校種の教職員や、地域の専門家が参加することも可能である。

カフェテリア方式による性教育の溢瀾は、筆者の知る限り、京都市の神川中学校という有数の大規模校での実践(平成12年度)にある。今回の京都市立崇仁小学校におけるカフェテリア方式による性教育実践は、崇仁小学校が小規模校ゆえに可能であったという考え方があるかもしれないが、それは大きな誤解である。

カフェテリア方式は大規模校ではじまった。平成12年度、神川中学校の3年生を対象に、教師たち(担任はもちろん、他学年や養護教諭も含め)が15ものテーマをたて、そこに生徒

を(希望などにより)振り分けて、小集団の指導をおこなった。当時、神川中学校では、生徒たちの性の問題などに対して教職員のあいだに危機感があり、それぞれが子どもたちにかかわるということの大切さについての共通理解が得られるのに時間がかからなかったと当時の養護教諭(小原さかえ氏)は言う。

神川中学校における平成12年度のカフェテリア方式による性教育のテーマ(カフェ)を以下に示した。性別の指導を行うカフェがあること、ハイリスク群への特別な対応を目指すカフェがあること、など、先進的な取り組みであることがわかる。

### 神川中学校における15のカフェ(平成12年度)

- ①結婚
- ②女性の避妊(養護教諭担当)
- ③女性からみた結婚
- ④女性心理
- ⑤男女交際から結婚までの男性心理
- ⑥男性性器とそのしくみ
- ⑦父親の心理
- ⑧性犯罪
- ⑨エイズウイルスとその感染
- ⑩同性愛について
- ⑪出産
- ⑫恋愛
- ⑬避妊(男子編)
- ⑭男女交際について
- ⑮男性からみた結婚

カフェテリア方式においては、その目的を重層的・多角的なものとして設定可能なところが特徴の1つである。今回の崇仁小学校における取り組みでは、その目的が大きく3つに分かれている。しかもそれらは、重層的多角的な目的になっており、その後の評価に対応できるようになっていることがわかる。

以上。



(表11)  
第2回担当者アンケート一覧

テーマ	子どもたちに伝えたいメッセージは？	指導後の感想は？	カフェテリア方式についての意見。
いのちのふしぎ？	いのちを大切にしたいということ	4, 5, 6年, 育成児童がいたため, 子ども達のもっている知識に差がありすぎて, 指導しにくかった。こちらが分かりやすく指導することができなかったが子ども達は集中してきてくれていた。児童会室ということで, 磁石の準備など不十分で学習しづかった。	4年生は基礎的な知識が少なかったため, 内容によっては分かりにくかったかもしれない。子ども達の希望と親の希望によって講座を選ぶのはよかった。指導者側がもっと事前に学習のねらいや進め方などを研究しておくことが必要だと感じた。
男の子ってこんなふうになるよ	体の面とともに心の面でも大人になってほしい。	1対1ということもあり, 話が深まった。本児もとても興味を持って学習に取り組んで, 質問もよくしていた。風呂場で中学生が性器を隠したがるのはなぜか, 大人と子どもは性器の形がちがうのはなぜかなどの質問があったので成長に個人差があること, それをひやかしたりしないこと, 性器の周りを清潔にすることなどを指導した。心の成長の部分は時間の関係で不十分だった。	2回目は1回目よりも思い通りにできた。1回目は参観があったりして, 自分としては緊張してうまくいかなかったと思う。また, 「担当者の思いで自由に」という形式にも戸惑いがあった。1回目にはある程度(略率的なもの)のものがあったほうが初めての試みとしてはよかったかもしれない。保護者の声として, 男子にも女子の体や体調のことも知ってほしいという意見がありました。
女の子ってこんなふうになるよ	自分のからだのことを知ったうえで大切にしたい。月経をプラスイメージでとらえてほしい。	前回と比べ6人という多い人数だったので少しやりにくかった。5年生3人は活発で意見もよく出せていたように思うが, 4年生2人は萎縮して, ほとんど思いを出せていなかったように思う。学年間の葛藤のようなものを感じた。初経を済んでいる子が2人いて自分の経験を話していたのは, 初経をむかえていない他の子にとって, 初経を身近に感じられてよかったのでは思う。「生理用品をお家の人に用意してもらおうといいよね」と話したが, 翌日早速買ってもらったと報告しに来た子がいた。その児童は数日後, 学校で初経をむかえた。その子にとって今回の授業が実際に役に立ち, 良かった。	テーマについて再考する必要がある。指導者のスキルアップが必要である。今年度は4~6年だったが, 4年生と6年生では理解力に差がありすぎるので5・6年生対象がよいと思う。
親になるってどんなこと？	親の役割を知り, その苦労や喜びについて気づく。親の思いや願いを考え, 自分をふり返る。	6年生の男子2名は少し照れくささもあり, 発言が少なかったが親の思いについては充分理解しているようである。参観していただいた保護者の方にも思いや考えを言っていただくことができたので子どもたちにとっては効果的だった。小学生にとって「自分が親になる」ということを想像するのは難しいようである。今回は自分の親の姿から考えた学習にとどまった。事前に保護者の方から思いをあまり聞けなかったのが残念だった。	違う学年の子がまざった小グループで自分の選んだテーマの学習を行うということとはとても新鮮で児童にとっても自分にとってもよかったと思う。2回目の学習の時に「親が勝手に決めたい自分がしたかったわけじゃない」と言う児童がいた。2回目のテーマの選び方を考え直す必要があるかもしれない。「親」という立場での思いを中心に進めたがそれがよかったかどうか分からない。
だれかを好きになったり, 結婚するってどんなこと？	「好きだから結婚」「結婚しないから好きな人はいない」ではない。今の「好き・きらい」なんてあてにならない。	「好きになる」ということについて, まだ深く考えられていない面と大人のことをよく見ているなという面とあったように思った。「好きになる」ということは「大切な人ができること」だという考えをもっていたので, 「自分も大切にしなければならぬ」という方向に話をもっていきやすかった。	
男女交際ってなに？	男女交際の在り方にスタンダードはない。相手に対する気持ちを大切にしたい。交際をきっかけに相手の良さに目を向けたり, 自分自身を高めたりしてほしい。	「男女交際ってなに？」というテーマは児童のニーズには対応しているが, 指導は難しい。指導というよりも, 子どもの思いや考えを引き出して共感するスタイルをとった。テーマに対する明確な答えを避けて, 自身の人間的な成長に目を向けさせることで, 生活改善への契機としたかった。1名の授業ということで, ねらいに対する一定の深まりは見られたが, 多様な意見を知る機会はなかった。子どもの知りたいことには何ら答えることはできていない。事前テーマについてのアンケートをとる必要を感じた。	カフェテリア方式は, 子どもの興味・関心に沿った学習を計画しやすい。しかし, 4~6年の縦割りに対しては, 発達段階や基礎学力の差を考えるとたいへん難しいように感じた。
スポーツのみりよく	自分の体力について知ることで, 運動の仕方や目的を意識し, よりよい学校生活を送って欲しい。	子どもたちは, 意外に自分の体力について正確に把握できていないと感じました。今後は, スポーツテスト等の結果を使って, 子どもたち自身が自分の体力について知ることのできるような場を設定し, より目的意識のはっきりした体育指導, 部活指導を行うことができると考えます。	学習テーマだけでなく, 学習内容についても子どもたちに伝え, 選択させてはどうか考える。

## 小学校におけるカフェテリア方式による性教育実践までのシステム構築に関する研究

江崎 和子 京都市立崇仁小学校  
松浦 賢長 福岡県立大学看護学部地域・国際看護学

今回、本校でのカフェテリア方式による性教育実践において、導入から実践までのシステム構築に関して示唆されたことを以下に述べる。

1. 教育実践、特に健康教育において新しい教育方法を導入するにあたっては、その背景や科学的根拠を明らかにしておく必要があることがわかった。
2. 性教育学者（アドバイザー）との連携により導入が可能であった。
3. 養護教諭がコーディネーターとしてキーパーソンになったことが導入を可能にした一要因である。
4. カフェテリア方式による性教育は実践校キーパーソン（養護教諭）が関係者（教職員）間の共通理解や連携を従来よりも多く行うことにより実践できた。

### 1 対象

#### I. 研究の目的

学校における性教育は、児童生徒等の発達段階に応じ、学習指導要領に基づいて、体育科、保健体育科、道徳、特別活動などを中心に学校の教育活動全体を通じて行われている。

加えて、近年の児童生徒を取り巻く社会環境の急激な変化に伴い、現在は、性に関する科学的知識を与えるとともに、人間尊重の精神に基づいて児童生徒が健全な異性観を持ち、これに基づいた望ましい行動を身に付けさせるようにするなどを重点に、学校、家庭、地域で実態に応じた性教育を組織的かつ体系的に展開することが求められている。

しかし、従来実施されてきた性教育では、「人格の完成や、豊かな人間形成」という性教育の目的に資することはできても思春期の性問題には限界があると考えられる。

そこで、性行動を低リスクに導くことを主目的にした「カフェテリア方式による性教育」を本校では、思春期前期である高学年に導入することにした。

その実践までのシステム構築について報告し、実践を可能にした要因をさぐると共に、研究機関（大学関係）と教育現場との連携についても探っていききたい。

#### II. 研究の方法

- (1) 学校名 京都市立崇仁小学校
- (2) 全校児童数 63名
- (3) 全教職員数 20名
- (4) カフェテリア方式による性教育の対象学年と児童数 4～6年 29名
- (5) カフェテリア方式による性教育の担当者（教員）数 6名
- (6) カフェテリア方式による性教育の外部からの担当者数 1名  
（児童が進学する中学校の教師）
- (7) カフェテリア方式による性教育の実施日  
①第1回 平成16年12月7日  
②第2回 平成17年1月19日

#### II. 方法

この実践モデルを開発した共同研究者の松浦にアドバイザーを依頼した。

同校では毎年、性教育実施案を6月の職員会議に提案している。

この提案については通常多くの学校では保健主事が担当しているが、同校では養護教諭が保健主事を兼務している関係で養護教諭が提案という形になっている。

平成16年度については、性教育学者（アドバイザー）との連携のもとにカフェテリア方式について同じく6月に提案し、さらに実施細案を11月、12月、1月に

提案し、全教職員共通理解のもとに12月に第1回、1月に第2回カフェテリア方式による性教育実践に至った。

### Ⅲ. 研究経過

#### 1. 平成16年3月までの経過

平成15年度アドバイザーによる養護教員研究会が京都市で5回開催され(4月、5月、6月、11月、2月)、同校養護教諭(以下養護教諭)はいずれも出席し、性教育のエビデンスについてのレクチャーを受けた。

#### 2. 平成16年4月～6月までの経過

##### (1) アドバイザーとの連携

カフェテリア方式による性教育実施案作成を目的に養護教諭はアドバイザーより面談2回(アドバイザーが同校を訪問)、電話とEメール約10往復により、アドバイスをうけた。

##### (2) 校内体制

養護教諭は同校学校長が地区の学校保健研修会の担当者であることを活かし、アドバイザーを講師として推薦することにより、カフェテリア方式による性教育導入への環境調整とした。(同研修会は学校医や保護者、地区養護教員会も対象であったため保護者啓発や他校実践への布石にもなった。)

6月の職員会議では従来の性教育の目標とともにカフェテリア方式の目的を説明し、具体的なイメージを持ってもらうために指導計画を日程表とともに提案した。特に反対意見はなく、賛同の意見があった。この1回目の職員会議で了承されれば、詳細は兎も角、実践は可能である。

(資料1)

#### 3. 平成16年7月～平成17年1月までの経過

##### (1) アドバイザーとの連携

カフェテリア方式による性教育実施細案作成を目的に同校養護教諭はアドバイザーより面談2回、電話とEメール数往復によるアドバイスを受けた。

また、授業日は2回ともアドバイザーに参観してもらい、アドバイスを受けた。

##### (2) 校内研修

養護教諭を講師に性に関する全国調査の紹介と文部科学省や京都市教育委員会の資料をもとに本校の指導内容を見直した。また、最近の新聞記事などを資料にして「個別指導の必要性」や「これから求められる性教育」についてもレクチャーを行った。

(資料2)

##### (3) 校内体制

具体的な実践に向けて、担当者全員を会しての打合せは困難であったため、養護教諭とそれぞれの担当者との打合せという形で体制作りを行った。

11月の職員会議では6月に提案した内容の変更点を説明し共通理解をはかった。(資料3)

さらに第1回実施に向けての直前、12月の職員会議(資料4)や第2回に向けての直前、1月の職員会議(資料5)で追加の細案を提案した。

##### (4) 外部担当者との連携

担当者の1人として、中学校教師に依頼するために校長間了解のもとに、養護教諭が中学校へ3回出向き、目的と方法について説明した。この中学校教師は第1回目は担当したが、2回目は日程調整ができず、本校の教師が補充した。

### Ⅳ. 考察

1. 近年、学校現場では時代の要請もあり、多岐にわたる教育実践が要求されている。

そして、多くの教師はそのための研修や指導方法開発に忙殺されている。

そのような中で健康教育として新しい教育方法を導入するためには時代の要請(子どもたちの実態)を味方にしながらその科学的な根拠を示していくことは必須であるし、それが明確になっていけば導入は可能であることがわかった。

2. 新しい教育方法を学校現場に適応するためには、その根拠を提示することが必須である。

また、基本形をそれぞれの現場（学校）に合った形に直して提案するためにはその研究者とのリアルタイムの連携が必要になってくる。

従って、性教育における新しい教育方法を提案するためには性教育学者との連携が必要になってくるわけだが、今回のアドバイザーによると性教育学者は2人しかいないということだ。その内の1人の性教育学者をアドバイザーに迎えられたのは幸運であった。しかし、アドバイザー勤務地が遠方ということもあり、その連携は困難であった。今後は全国的により多くの性教育学者の輩出を期待したい。

また、性教育学者（アドバイザー）と実践校キーパーソン（養護教諭）との連携手段としてはEメールが効果的であった。しかし、京都市内の公立学校においては学校単位でのEメールアドレスはあるが養護教諭（保健室）専用で外部との通信ができるEメールアドレスはなく、同校の養護教諭も個人のを保健室に持ち込み、使用せざるをえなかった。今後の課題である

3. キーパーソンである養護教諭は平成16年度からA大学院養護教育専攻の院生でもあった。従って「研究」への内発的動機がすでに存在した事実は否めない。

しかし、そうでなくても今回のカフェテリア方式導入に際しては、日頃、個別指導を実践している養護教諭だからこそキーパーソンになり得たのではないかと思われる。性教育についての個別指導のノウハウはすでに多くの養護教諭が持っていると考えられる。

4. 新しい方法を導入するのだから当然のことだが、養護教諭はコーディネーターの役割を活かし、通常1回の職員会議で実践までいくところを2回の職員会議で提案し、1回の研修会を設定した。養護教諭が関係者（教職員）間の共通理解や連携を従来よりも多く行うことにより実践できたと言えよう。

## V. まとめ

今回、同校でのカフェテリア方式による性教育実践において、導入から実践までのシステムを構築する過程で以下のことが示唆された。

1. 教育実践、特に健康教育において新しい教育方法を導入するにあたっては、その背景や科学的根拠を明らかにしておく必要がある（明らかでなければ導入すべきではない。）ことがわかった。
2. 性教育学者（アドバイザー）との連携により導入が可能であった。  
また、遠方に勤務する性教育学者（アドバイザー）と実践校キーパーソン（養護教諭）との連携手段としては面談、電話、Eメールが効果的であった。
3. 養護教諭がコーディネーターとしてキーパーソンになったことが導入を可能にした一要因である。
4. 実践校キーパーソン（養護教諭）が関係者（教職員）間の共通理解や連携を従来よりも多く行うことにより実践できた。

今回、性教育学者によって開発された「カフェテリア方式」を実践適応することができた。このような実践適用を多く重ねることで時代のニーズに合った性教育が確立されていくものと考えられる。

それには、研究者による現場への働きかけと、現場における研究のマインドが不可欠であると思われる。

## VI. 参考文献

1. 「学校における性教育の考え方、進め方」平成11年3月31日発行 文部省
2. 「学校・園における性教育・エイズ教育指導資料」平成14年4月発行 京都市教育委員会
3. 松浦賢長：新しい時代の性教育を考える～思春期の性問題に対する現行学校性教育の限界～、日本性教育協会（JASE）研究月報、2004年5月
4. 松浦賢長、江崙和子：性教育に関する集団指導と個別指導の中間的指導「カフェテリア方式」の開発。第51回日本学校保健学会講演集、2004年11月

## (資料1)

平成16年度

### 性教育実施案(エイズ教育を含む)

平成16年6月3日  
京都市立崇仁小学校

#### 1 はじめに

性教育とは言うまでもなく人間の「性」の教育と言うことであるが、人間の性はセクシュアリティという幅広い概念でとらえる。即ちセクシュアリティとは「人格と人格とのふれあいの全てを包含するような幅広い性概念で、人間の身体の一部としての性器や性行動のほか、他人との人間的なつながりや愛情、友情、融和感、思いやり、包容力など、おおよそ人間関係における社会的・心理的側面やその背景にある生育環境なども全て含まれる」(アメリカ性情報・教育協議会創始者 カーケンダールの言葉)と解釈し、この概念が現代の性教育の根幹をなしている。

#### 2 学校における性教育の目標

学校教育は、児童生徒等の人格の完成、豊かな人間形成を目的とし、生命尊重、人格の尊重、人権尊重など民主主義の基本的な理念である人間尊重の精神に基づいて行われるものである。このため性教育も従来から人間の性を人格の基本的な部分として生理的側面・心理的側面・社会的側面などから総合的にとらえ、科学的知識を与えると共に、児童生徒が、いのちの大切さを理解し、また人間尊重、男女平等の精神に基づく正しい異性観を持ち、望ましい行動をとれるようにすることによって、人格の完成、豊かな人間形成に資することを目的としている。

しかし、近年、性に関する意識や価値観が多様化し、児童生徒の家庭環境や、児童生徒を取り巻く社会環境も大きく変化する中で、児童生徒の心身の発達は性的成熟と社会的成熟にギャップが生じアンバランスとなっている。また、薬物乱用に伴う性犯罪、売買春やその類似行為、性情報の氾濫、性感染症や10歳代の人工妊娠中絶などが増加し、青少年の性に関する健康問題も深刻化している。

さらに現在でもなお固定的な性役割感やそれに伴う性差別感が残存している。このため、男女共同参画社会を目指した教育「人権教育、男女平等、相互協力・理解」についての指導の充実が強調されており、これらについては男女の成長・発達の特徴を理解した上で、性教育を通して指導することが大切である。

- \* 1, 2については『「学校・園における性教育・エイズ教育指導資料」平成14年4月京都市教育委員会』より抜粋

#### 3 本校の性教育の目標

本校の教育目標(価値ある人間として社会に生きぬく人間像をめざし、心身ともに豊でたくましく、生きて働く学力をもち、未来を創造する子どもを育てる。)に基づき、性に対する正しい判断力を培い、健全な態度を養うと共に、男女相互の敬愛にもとづく好ましい人間関係や自他の人権としての性を尊重する意識や態度を育てる。

- (1) 心身の発達に関心を持たせ、性に関する基礎的な知識を理解させる。  
－自己を知る－
- (2) 男女のからだには、しくみに違いがあることを理解させ、互いに協力する態度を育てる。  
－男女を知る－
- (3) 親子の結びつきを考えさせ、生命誕生のしくみや生命の連続性について理解させる。  
－生命の大切さを知る－
- (4) 性情報や性差別、性被害について考えさせ、性に関わる諸問題に対して、自他の性を尊重し、適切な対応ができる態度を育てる。  
－社会を知る－
- (5) エイズの疾病概念、感性経路及び予防方法を発達段階に応じて、正しく理解させ、エイズを予防する能力や態度を育てるとともに、人間尊重の精神に基づき、エイズに対するいたずらな不安や偏見を取り除き、エイズ感染者・患者の人権を尊重しようとする態度を育て

る。

－エイズ指導－

#### 4 教育課程における性教育の位置づけ

学校における保健教育の方向は学習指導要領第一章総則に示されている。ここでは、「学校における体育に関する指導は、学校の教育活動全体を通じて適切に行うものとする。特に、体力の向上及び健康の保持増進に関する指導については、体育科の時間はもとより、特別活動などにおいても十分行うよう努めることとし、それらの指導を通して日常生活における適切な体育的活動の実践が促されると共に、生涯を通じて健康で安全な生活を送るための基礎が培われるよう配慮しなければならない。」としている。つまり、教科という一つの領域で考えないで学校の教育活動全体の中で取り上げていこうという趣旨である。

しかし、実践するにあたっての考え方として、教科にはそれぞれの目標があり、保健教育は発達段階に即した系統的な指導が必要であるということから、基本的には統合した扱いが必要と思われる。

従って、性教育も保健教育と同じように、教科・道徳のあちこちで少しずつ扱うのではなく統合的に扱っていきたい。すなわち、性教育を効果的に行うためには、体育科の保健領域と同時に、性に関する知識・態度・習慣を一人一人に身につけさせるのに最も実践的で具体的な指導が展開される特別活動の学級活動に位置づけ、指導に当たることが大切だと思われる。その上で教科（体育科保健領域以外）・道徳・学級活動以外の特別活動・教育課程外の指導などと有機的に関連づけていく必要がある。

#### 5 実施方法（平成16年度）

(1) 実施時期 後期に実施（特別活動 1～3年2時間 4～6年3時間）

(2) 内 容

\* 1～3年については従来通り学級で行う。

\* 4～6年（合計28人、女子14名、男子14名）は従来の学級指導ではなく学年の枠をはずした個別指導あるいはグループ指導を行う。

\* 指導案を作成する。（全学年、全グループ）

\* 4～6年の個別、グループの分け方はそれぞれ指導者とテーマを決め、児童や保護者が希望するテーマのところで指導を受ける。

目的・心身の発育による性に関する個人差（興味・関心も含める）を尊重する。

・教師も自分が得意とする「性教育に関連する分野」により、その根底にあるメッセージを伝える。それは生命の大切さ、二次性徴、心の変化といったような従来の主題のように端的に表されるメッセージでなく、教師も“性を切り離せない”人間として子どもたちに伝えたいもの、といったような本質的な奥深い何か伝わればよい。

・性に関するネットワークづくりとして、将来子どもたちが相談できるリソース（資源）やライン、雰囲気を増やし、高める。また、個別指導・継続指導への布石となるようにする。

・指導者—4～6年の学年担任及び中・高学年の学年担当、養護教諭 計6人

仮称・「カフェテリア方式」とする。カフェテリア→客が自分で料理を選び、食卓に運んで食べる形式の飲食店—対象（児童）が学びたいことを自分で選ぶという意味

\* 実施に際しては保護者に知らせ、了承を得る。また、実施結果などは保護者へ還元していく。

\* 指導記録をとり、実施の評価を行い、まとめを作成する。

(3) 指導計画

月 日	内 容	保護者啓発・評価等
6月	・職員会で提案	
8月	・職員研修会 テーマ「子どもの健康実態について」（性にかんする全国調査の紹介と文部科学省や京都市の冊子をもとに本校の指導内容を見直す。） 講師—江崙	

10月7日 中旬 下旬	<ul style="list-style-type: none"> <li>・4年生に保健学習「育ち行く体とわたし」の単元を実施（養護教諭と教育実習生担当）</li> <li>・6年生に保健学習「病気の予防」の単元を実施（養護教諭担当）</li> <li>・実態把握—4～6年生の性に関する知識や態度についての傾向を把握</li> <li>・指導者対象に「性教育で子どもたちに伝えたいこと」アンケートを実施</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ほけんだより等による保護者啓発</li> <li>・児童対象アンケート①</li> <li>・指導者対象アンケート②</li> </ul>
11月上旬 下旬	<ul style="list-style-type: none"> <li>・職員会で具体的な指導内容について再提案</li> <li>・第1回性教育の実施（全学年） 1～3年は学年別 4～6年については全体指導—担当—江崙，担任 テーマ「未定」 カフェテリア方式の説明と方法についてのオリエンテーションを行う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ほけんだより等による保護者啓発</li> <li>・児童対象の希望調査</li> </ul>
12月上旬  12月 20・21日	<ul style="list-style-type: none"> <li>・第2回性教育の実施（4～6年） カフェテリア方式 テーマについては①②のアンケートをもとに設定する。 (例)「生命の誕生」「生命の連続性」「男女の身体のちがい」「男女の協力」「家庭や社会における男女の役割」「性情報」「性被害」「エイズに関すること」「ストレスについて」（「性」以外のテーマも設定）など 指導者—花谷 稲垣 木村 加藤 田中 江崙 場所—4～6年教室 わかくさ（多目的教室） 保健室 おはなしのもり（図書室）</li> <li>・個人懇談会で保護者との連携をはかる 第1回実施後のお知らせと、保護者として指導してほしい内容などについて</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ほけんだより等による保護者啓発</li> <li>・個人懇談会等による保護者との連携</li> <li>・懇談会用資料配布</li> </ul>
1月19日 5校時参観 6校時懇談  下旬	<ul style="list-style-type: none"> <li>・第3回性教育の実施（全学年） 1～3年は学年別 4～6年はカフェテリア方式 児童の希望，保護者の希望を考慮し指導者で設定する。テーマ，指導者，場所は基本的には2回目と同じで児童ができるだけ違うテーマを選択するようにさせる。</li> <li>・評価—児童対象にアンケート実施</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ほけんだより等による保護者啓発</li> <li>・出席した保護者のとの連携</li> <li>・児童対象アンケート③</li> </ul>
2月	<ul style="list-style-type: none"> <li>・まとめと考察</li> </ul>	

(3) その他

- \* 個別（1対1の指導）指導が必要な児童については上記以外に設定する。
- \* 性教育における小中連携を行う。
- \* アンケート①②③については8月の研修会で提案する。

### 1 学校における性教育の基本的な考え方

最近の児童生徒等の性的成熟や性意識・性行動などの実態を考えると、これらの背景にある家庭や社会の現状を踏まえ、学校は様々な学問分野を基盤として幅広い観点から、性教育を一層充実させる必要がある。

### 2 性教育の今日的意義と必要性

国民の性に対する意識や価値観が多様化し、児童生徒等の家庭環境や児童生徒等を取り巻く社会環境も大きく変化している。そうした中で児童生徒等の心身の発達は、性的成熟と社会的成熟にギャップが生じアンバランスとなっている。また、薬物乱用、売買春やその類似行為、性感染症や10代の妊娠中絶などが増加し、性に関する健康問題も深刻化している。

学校はすべての児童生徒に対して、人間尊重、男女平等の精神の徹底を図るとともに、人間の性に対する基礎的・基本的事項を正しく理解させ、同性や異性との人間関係や現在及び将来の生活において直面する性に関する諸問題に対して、適切な意思決定や行動選択ができるよう性教育を充実する必要がある。

#### \* 児童生徒の人格形成と性教育

#### \* 人間尊重、男女平等の精神に基づく性教育

#### \* 健康に関する現代的課題と性教育

##### ・ 児童生徒等の健康問題と性

児童生徒等の間に様々な性の逸脱行為が生じ、その結果として、望まない妊娠、人工妊娠中絶、性感染症の増加などが指摘されている。この増加の原因の一つとして、児童生徒が性に対して無知であることや性に対して認識が不足していることが指摘されている。

さらに、女子においては「やせ」願望による薬物の乱用、過剰な減量のために摂食障害が広がっているが、これは自己の性に対する認識の問題でもあると指摘されている。

##### ・ 児童生徒等の性の意識、性行動の実態

##### ・ 性に関する問題行動

「性に関して特別な指導を要する行動」

① 児童生徒等の発達段階から考えて、それにふさわしい行動と著しくかけ離れている行動

② 一般的な社会的価値基準に適合しない行動

③ 児童生徒等の成長や発達を阻害する行動

##### ・ 性に関する情報環境

##### ・ エイズと性教育

### 3 学校における性教育の基本的な考え方と指導の在り方

学校における性教育は、人間尊重の精神に基づき、人格の完成を究極の目標として行う性に関する教育活動である。性教育は(中略)学校の教育課程に位置付けられた教育活動を通して実施される場合と、学校全体を通じて集団的、個人的に行われる生徒指導としての指導や支援とが統合されて成り立っている。従って、学校における性教育は、学校の教育目標を踏まえて、しかも家庭や地域社会と連携を図りながら実践されなければならない。

#### 学校における性教育の基本的な考え方

#### \* 学校における性教育の基本的な目標

#### \* 学校における性教育の内容



- \* 学校における性教育の指導体制
- \* 性教育実施上の留意点
- 4 本校における性教育(カフェテリア方式)について
- \* Sex Education と Sexuality Education
- \* 集団指導から個別指導へ
- \* カフェテリア方式の条件
  - ・ ハイリスクの子どもたちへの対応を考慮したもので基本は個別指導と考える
  - ・ 学校指導要領, 学校における教育範囲を逸脱しない
  - ・ 保護者の了解を得る
  - ・ 集団指導と個別指導の両方を行う
  - ・ 多くの指導者が関わることで子どもたちへのメッセージ環境を構築したり, さまざまな性に関する態度や意識を伝える
  - ・ 多くのテーマを用意し選択させる
  - ・ 多様性への配慮を行う(子どものニーズ, 保護者のニーズ, 指導者のニーズに対応する)

(資料3)

平成16年度

性教育(カフェテリア方式)実施案

平成16年11月4日  
京都市立崇仁小学校

1 実施時期 後期に実施(特別活動 1~3年2時間 4~6年3時間)

2 内容

- \* 1~3年については従来通り学級で行う。
  - \* 4~6年(合計28人, 女子14名, 男子14名)は従来の学級指導ではなく学年の枠をはずした個別指導あるいはグループ指導を行う。
  - \* 指導案を作成する。(全学年, 全グループ)
  - \* 4~6年の個別, グループの分け方はそれぞれ指導者とテーマを決め, 児童や保護者が希望するテーマのところで指導を受ける。
- 目的・心身の発育による性に関する個人差(興味・関心も含める)を尊重する。
- ・ 教師も自分が得意とする「性教育に関連する分野」により, その根底にあるメッセージを伝える。それは生命の大切さ, 二次性徴, 心の変化といったような従来の主題のように端的に表されるメッセージでなく, 教師も“性を切り離せない”人間として子どもたちに伝えたいもの, といったような本質的な奥深い何かは伝わればよい。
  - ・ 性に関するネットワークづくりとして, 将来子どもたちが相談できるリソース(資源)やライン, 雰囲気を増やし, 高める。また, 個別指導・継続指導への布石となるようにする。
  - ・ 指導者—4~6年の学年担任及び中・高学年の学年担当, 養護教諭 計6人
- 仮称・「カフェテリア方式」とする。カフェテリア→客が自分で料理を選び, 食卓に運んで食べる形式の飲食店—対象(児童)が学びたいことを自分で選ぶという意味
- \* 実施に際しては保護者に知らせ, 了承を得る。また, 実施結果などは保護者へ還元していく。

3 指導計画(6月提案)

月 日	内 容	保護者啓発・評価等
6月	・ 職員会で提案	
8月	・ 職員研修会 テーマ「子どもの健康実態について」(性にかんする全国調査の紹介と文部科学省や京都市の冊子をもとに本校の指導内容を見直す。)講師—江崙 →実施済	
10月7日 中旬 下旬	・ 4年生に保健学習「育ち行く体とわたし」の単元を実施(養護教諭と教育実習生担当) →実施済 ・ 6年生に保健学習「病気の予防」の単元を実施(養護教諭担当) →実施済 ・ 実態把握—4~6年生の性に関する知識や態度についての傾向を把握 →11月下旬予定 ・ 指導者対象に「性教育で子どもたちに伝えたいこと」アンケートを実施	・ ほけんだより等による保護者啓発 →実施済 ・ 児童対象アンケート ①(第1回希望調査) →11月2日実施済 ・ 指導者対象アンケート ②→インタビュー方式で11月中旬予定
11月上旬 下旬	・ 職員会で具体的な指導内容について再提案 ・ 第1回性教育の実施(全学年)→4~6年 1~3年は学年別 →4~6年の第2回と同じ日に実施 4~6年については全体指導—担当—江崙, 担任 テーマ「自分でえらぶ性教育(仮称)」 カフェテリア方式の説明と方法についてのオリエンテーションを行う。 →学年別実施する場合もある	・ ほけんだより等による保護者啓発 ・ 児童対象アンケート(第2回希望調査)
12月上旬 12月7日	・ 第2回性教育の実施(4~6年) 1~3年は学年別 カフェテリア方式	・ ほけんだより等による保護者啓発

<p>(火) 5校時</p> <p>12月 20・21 日</p>	<p>テーマについては①②のアンケートをもとに設定する。 (例)「生命の誕生」「生命の連続性」「男女の身体のちがい」 「男女の協力」「家庭や社会における男女の役割」 「性情報」「性被害」「エイズに関すること」 「ストレスについて」(「性」以外のテーマも設定) など 指導者—花谷 稲垣 木村 加藤 田中 江寄 場 所—4～6年教室 わかくさ(多目的教室) 保健室 おはなしのもり(図書室)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>個人懇談会で保護者との連携をはかる</li> <li>第1回実施後のお知らせと、保護者として指導してほしい内容などについて</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>個人懇談会等による保護者との連携</li> <li>懇談会用資料配布</li> </ul>
<p>1月19日 5校時参観 6校時懇談</p> <p>下旬</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>第3回性教育の実施(全学年) 1～3年は学年別 4～6年はカフェテリア方式 児童の希望、保護者の希望を考慮し指導者で設定する。テーマ、指導者、場所は基本的には2回目と同じで児童ができるだけ違うテーマを選択するようにさせる。</li> <li>評価—児童対象にアンケート実施</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>ほけんだより等による保護者啓発</li> <li>出席した保護者のとの連携</li> <li>児童対象アンケート③</li> </ul>
<p>2月</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>まとめと考察</li> </ul>	

(4) その他

- \* 個別(1対1の指導)指導が必要な児童については上記以外に設定する。
- \* 性教育における小中連携を行う。→皆山中学校小林先生に一つのテーマを担当していただく。
- \* アンケート①②③については8月の研修会で提案する。→それぞれ実施前に提案

4 第1回、第2回性教育について

- \* 1～3年のテーマについては「学校・園における性教育・エイズ教育指導資料」をもとに学年実態に応じたテーマを設定し実施する。
  - (ア) 「きれいなからだ」「知らない人」
  - (イ) 「男女なかよし」「わたしたちが生まれたとき」
  - (ウ) 「大切な友だち」「テレビ・まんがとわたしたち」
- \* 4～6年のカフェテリア方式については、アンケートの結果より概ねテーマを下記のように設定する。

- |                     |                     |
|---------------------|---------------------|
| ・生命誕生、いのちに関わること     | ・男子、男性のからだや変化に関すること |
| ・女子、女性のからだや変化に関すること | ・父親、母親、子育て、家庭に関すること |
| ・異性への感情や結婚に関すること    | ・男女交際に関すること(皆山中学校)  |
| ・直接“性”に関わらないこと      |                     |

《参考》

児童アンケートより

その他にからだところのことで、知りたいこと。

- |                 |                  |
|-----------------|------------------|
| ・体のしくみ、あたまのはたらき | ・人間はどれくらい生きられるか? |
| ・ほねのしくみ         | ・大人になるにつれて発生する病気 |
| ・せいちょうの事        | ・びょうきってなぜおこるの?   |
| ・おなかへったり、いたくなる。 | ・なぜようけたべたら太るのか。  |

(資料4)

平成16年度 第2回性教育(第1回カフェテリア方式)実施に向けて(案)

12月2日 職員会

1 実施日 平成16年12月7日(火) 5校時

2 当日までの予定

11月29日(月) 企画委員会提案 6年児童事前アンケート実施

11月30日(火) 職朝提案(参観者の件) 4年児童事前アンケート実施

12月 2日(木) 5年児童事前アンケート実施

職員会議提案(全学年の指導案配布)

皆山中学校小林先生との連携(江寄)

12月 6日(月) 児童ヘグループメンバーと場所の発表 ほけんだより配布

12月 4日(木)~6日(月) 資料準備

3 当日の役割分担(敬称略)

学年及びG	担当者	場所	記録	学年及びG	担当者	場所	記録
1年	深尾	教室	入江	女の子	江寄	保健室	(録音)
2年	佐土原	教室	川北	親	稲垣	わかくさ	(ビデオ)
3年1組	山川	教室	山川	結婚	花谷	教室	(録音)
2組	原	教室	原	スポーツ	田中	児童会室	(ビデオ)
いのち	加藤	教室	(ビデオ)	男女交際	小林先生	おはなしの森	宮元
男の子	木村	教室	(ビデオ)				

4 当日の参観者(予定)

- ・ 福岡県立大学看護学部 地域国際看護学部教授 松浦賢長先生(性教育学者)
- ・ 福岡県教育庁教育振興部スポーツ健康課 寺崎雅巳先生(指導主事)
- ・ 大牟田市立明治小学校 中野一成先生(教諭)
- ・ 宝珠山小石原中学校組合立東峰中学校 谷川 修先生(教諭)
- ・ 福岡県立鞍手竜徳高等学校 濱 龍彦先生(教諭)
- ・ 京都市小学校下京支部養護教諭, 保健主事 若干名

5 当日のタイムスケジュール

- \* 午前中 ビデオ設置, 参観者資料準備 一稲垣, 田中, 江寄
- \* 1:00 参観者来校(ふれあいサロンへ)  
接待, オリエンテーション 一江寄
- \* 1:15~1:30 清掃
- \* 1:35~1:40 児童及び指導者の移動(児童は筆記具持参)
- \* 1:40~2:25 性教育(学級活動)
- \* 2:35~4:00 事後研究会(ふれあいサロン)  
出席 ・ 参観者  
・ 学校長 養護教諭(保健主事)

事後研究会タイムスケジュール(司会 江寄)

- 2:35~2:50 挨拶及び本校の取組 学校長
- 2:50~3:20 今年度の性教育の取組について 養護教諭(保健主事)
- 3:20~3:50 指導助言 松浦先生
- 3:50~ フリートーキング(協議&質問)